

平成22年度第2回図書館協議会配布資料一覧

1 次第

- 2 平成22年度運営状況について経過報告 【資料1】
- 3 「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』」事業概要（経過報告） 【資料2】
- 4 「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』」選定委員会設置規程（案） 【資料3】
- 5 「(仮称)千葉県立図書館の今後の在り方」素案 【資料4】

平成22年度第2回図書館協議会次第

日 時 平成22年12月15日（水）
午後2時から
場 所 千葉県立中央図書館 講堂

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 平成22年度運営状況について経過報告

【資料 1】

(2) 県民の本棚について

① 事業概要（経過報告）

【資料 2】

② 選定委員会設置規程について

【資料 3】

(3) その他

4 その他

5 閉 会

平成22年度運営状況（経過報告）

【資料 1】

図書館事業概要

（平成22年9月30日現在）

項目		館名	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計
資料整備	資料総数	受入冊数	5,539冊	2,246冊	4,628冊	12,413冊
			6,333冊	3,179冊	4,819冊	14,331冊
		(内購入冊数)	(3,169冊)	(1,315冊)	(3,955冊)	(8,439冊)
	購入費		(3,721冊)	(1,895冊)	(3,927冊)	(9,543冊)
			15,157千円	7,238千円	15,911千円	38,306千円
	蔵書数※		17,834千円	10,579千円	15,174千円	43,587千円
		855,677冊	245,347冊	232,114冊	1,333,138冊	
新聞・雑誌・法規集		850,138冊	243,101冊	227,486冊	1,320,725冊	
		80紙・3,540誌・35種 82紙・3,308誌・35種	87紙・627誌・9種 93紙・660誌・9種	28紙・376誌・4種 28紙・377誌・4種	195紙・4,543誌・48種 203紙・4,345誌・48種	
奉仕業務	利用状況	入館者数	55,439人	131,785人	106,338人	293,562人
			51,551人	137,101人	111,559人	300,211人
		登録者数※	16,395人	21,969人	13,622人	51,986人
	個人貸出		13,646人	18,659人	11,082人	43,387人
			31,485冊	34,893冊	33,734冊	100,112冊
	資料複製サービス		29,184冊	36,710冊	34,796冊	100,690冊
		83,597枚	43,671枚	6,394枚	133,662枚	
参考調査 照会・質問		80,397枚	41,850枚	8,755枚	131,002枚	
		6,819件	8,162件	3,561件	18,542件	
協力業務	図書館間貸出冊数		8,259件	7,775件	3,848件	19,882件
			21,641冊	9,108冊	16,684冊	47,433冊
市町村立図書館等の相互貸出冊数		21,786冊	8,860冊	17,622冊	48,268冊	
		21,112冊	15,759冊	6,268冊	43,139冊	
管内人口(平成22年1月1日)			20,435冊	15,938冊	6,835冊	43,208冊
			6,187,319人			

備考 蔵書数にはマイクロ資料、視聴覚資料を含む。

下段は、平成21年9月末の数値

※ 蔵書数及び登録者数の下段は、平成22年4月1日現在の数値

※ 各エリア内での貸出冊数（中央図書館の数値は、県内高等学校、大学及び類縁機関等を含む）

1 資料の収集・整理・保管

資料整備計画達成状況

（平成22年9月30日現在）

区分	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計	目標値	進捗率
① 購入図書資料	3,169冊	1,315冊	3,955冊	8,439冊	18,600冊	45.4%
② 寄贈図書資料	2,370冊	931冊	673冊	3,974冊	8,300冊	47.9%
③ 千葉県関係資料 (購入・寄贈の内数)	1,299冊	291冊	240冊	1,830冊	3,200冊	57.2%
逐次刊行物(購入)	183タイトル	460タイトル	307タイトル	950タイトル		

2 奉仕業務

(1) 調査相談業務

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
⑧ レファレンス件数	目標値 32,000件	18,542件	57.9 %
⑨-a レファレンス事例データ提供件数	目標値 190件	32件	16.8 %
⑨-b パスファインダー作成・更新件数	目標値 35件	9件	25.7 %
⑩ 外部データベース件数	目標値 18件	17件	94.4 %
⑪-a 千葉県関係索引データ作成件数	目標値 8,300件	3,642件	43.9 %
⑫ 資料の電子化	目標値 400タイトル	780タイトル	195 %

(2) 閲覧業務

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
④ 来館者数	目標値 508,000人	293,562人	57.8 %
⑥ 来館者満足度	目標 満足度70%以上	〔 10月27日～11月9日 来館者アンケート実施予定 〕	—
⑪-b 千葉県関係のテーマ展示	目標 千葉県関係のテーマ展示 3回以上 課題解決型の企画展示 1回以上	千葉県関係のテーマ展示 2回	66.7 %

(3) 障害者サービス

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
⑯ 録音図書貸出数	目標 8,000タイトル	5,858タイトル	73.2 %
⑳ 図書館ボランティアの育成	目標 320人	335人	104.7 %

(4) 児童サービス

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
⑭ 児童書の貸出冊数 (相互協力冊数を含む)	目標 33,000冊	19,240冊	58.3 %

(講座等の実施)

中央図書館

区 分	事業計画	実施状況
書庫見学会	第2金曜日、第4金曜日	10回実施 参加者延べ31人 平均3.1人/回
図書館活用ミニ講座	第2金曜日、第4金曜日	3回実施 参加者延べ 5人 平均1.7人/回
障害者サービス入門講座 国民読書年記念	12月21日(火)開催予定	「視覚障害者の求める読書環境について」 「音訳者の立場から(体験談)」当館職員 の予定
図書館音訳者養成講座	11月2回開催予定	第1回 11月18日(木)、第2回 11月26日 (金)「音訳の読みについて」 高山久美 子氏 11月30日(火)「音訳者に役立つサピエ 活用法」堀江達郎氏の予定
障害者のための読書支援機器活用講座	9月3回(各2回)開催予定	第1回 9月7日(火)「音声読書機器について」 宇都修一氏 参加者10人 第2回 9月15日(水) 「サピエ図書館の体験」荒川明宏氏 参加者14 人 第3回 9月24日(金)「拡大読書機につい て 森田茂樹氏 参加者12人 平均12人/回
盲ろう者のための読書支援機器活用講座	11月1回開催予定	(11月9日(火)坂本貢氏の予定)
定例おはなし会	毎週土曜日午後	計25回 当館児童資料室司書2人 参加者145人 平均5.9人/回
春のおはなし会 国民読書年記念	4月1回開催予定	4月24日(土)当館職員3人 参加21人
冬のおはなし会	12月1回開催予定	(12月12日(日)当館職員3人予定)
アドベンチャーライブラリー	8月に1回開催予定	8月25日(水)参加者 小学生8人
子どもの本の読み聞かせ講座	年2回開催予定	第1回 千葉会場 8月20日(金) 小谷孝子氏 参加者45人 (第2回 栄町会場 1月27日(木) 1月28日(金) 入交 静氏 予定)

西部図書館

区 分	事業計画	実施状況
ワンポイント図書館活用講座	10月22日(金) 1回開催予定	〔10月22日(金) 「千葉県立図書館の就業支援について」 講師 当館職員 予定〕
障害者サービス入門講座	7月28日(水) 1回開催予定	7月28日(水) 「図書館関係の障害者サービスについて」 講師 中央図書館及び当館職員 参加者14人
県民の本棚 みんなが選んだ「ちばの一冊」	通年	推薦図書募集期間 7月6日(火)～9月7日(火) 〔推薦リスト発表 10月27日(水)〕 〔推薦図書発表23年3月 予定〕
図書館まなびトーク	11月26日(金) 1回開催予定	(11月26日(金) 予定)
サイエンスカフェ	8月21日(土) 1回開催予定	8月21日(土) 「南極についての講演」 講師 第50次南極地域観測越冬隊員(県立東葛飾高等学校教諭) 武田康男氏 参加者34名
中高年者に向けた再就職支援セミナー	10月22日(金) 1回開催予定	〔10月22日(金) 「再就職関係講義」 講師 ちば仕事プラザ キャリアコンサルタント 徳田敦子氏 予定〕
図書館音訳者養成講座	6月9日(水)・7月2日(金) 21日(水) 11月5日(金) 10日(水) 17日(水) 6回開催予定	6月9日(水) 7月2日(金) 21日(水) 「DAISY編集について」 講師 音訳者 大内素子氏 深井ちえ子氏 参加者延べ12人 〔11月5日(金) 10日(水) 17日(水) 「図書館音訳者養成講座」 講師 フリーアナウンサー 高山久美子氏 予定〕
障害者のための読書支援機器活用講座	2月中旬1回開催予定	(2月中旬予定)

東部図書館

区 分	事業計画	実施状況
図書館の達人(初級編)	毎月第2日曜日(4月を除く)	5月9日参加者1人、7月11日参加者2人 8月8日参加者1人 計3回4人平均1.4人/回
図書館の達人(中級編)	年4回	9月9日参加者2人
文学・歴史講座	11月27日(土) 1回開催予定	〔11月27日(土) 開催予定 村落生活と和算―東総を中心に〕 講師：鈴木秀幸氏〕
名作映画鑑賞会	毎月第3土曜日(8月を除く)	4月17日「おくりびと」参加者73人 5月15日「チート」参加者27人 6月19日「奥様は魔女」参加者24人 7月17日「ヒロシマナガサキ」参加者32人 9月18日「殞(もがり)の森」参加者52人 計5回参加者延べ208人 平均42人/回
図書館音訳者養成講座	全5回	9月1日「アクセント辞典を使いこなすために①」 9月8日「アクセント辞典を使いこなすために②」 9月15日「修正を少なくする録音方法①」 9月29日「修正を少なくする録音方法②」 4回実施参加者延べ31人 平均7.8人/回

3 協力・援助業務

(1) 図書館協力業務

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
⑰ 相互協力貸出冊数	目標値 90,000 冊	47,433冊	52.7%
⑱ 協力レファレンス	目標値 1,400件	673件	48.1%
図書館連絡車・協力車巡回	連絡車巡回（県立図書館間） 週2回 火曜日・木曜日 協力車巡回（各エリア） 週3回 水・木・金 計9コース	連絡車巡回（県立図書館間） 週2回 火曜日・木曜日 協力車巡回（各エリア） 週3回 水・木・金 計9コース	—

(2) 研修会の実施

区 分	事業計画	実施状況
研修会の開催	(中央図書館) 公共図書館新任職員研修会 参加予定者 70人 公共図書館中堅職員研修会 参加予定者 30人 千葉県読書グループ研修会 第1回参加予定者 100人 第2回参加予定者 50人 (西部図書館) 図書館ネットワーク研修会 1回 参加予定数 30人 (東部図書館) 図書館運営研修会 1回 参加予定数 50人 資料検索研修会 1回 参加予定数 15人	5月19日（水）参加者71人 (講師選定中 未実施) 6月3日（木）参加者68人 10月19日（火） 10月7日（木） 6月25日（金）参加者 41人 7月23日（金）参加者 8人

(3) 未設置市町村の援助

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
相互協力貸出	随時、資料の貸出しを行う。	2,356冊	—
協力レファレンス	随時、協力レファレンスを受け付ける。	59件	—
運営相談及び市町村巡回	読書施設からの質問等を随時受け付けるとともに、施設訪問をし、運営相談に応じる。	運営相談 中央 34件 東部 14件 計 48件 訪問巡回 中央 未実施 東部 12回 計 12件	—

4 研修事業

(1) 中央図書館

区 分	事業計画	実施状況
公共図書館新任職員研修会	1回 参加予定数 70人	5月13日(水)「公共図書館の役割と利用サービス」「公共図書館のレファレンスサービス」「公共図書館の児童サービス」「県内図書館の概要と図書館ネットワーク」 講師 当館司書 参加者71人
公共図書館中堅職員研修会	1回 参加予定数 30人	講師選定中 未実施
児童サービス基礎研修会	4回 参加予定数 120人	第1回 6月3日(木)「児童奉仕概論」貞方厚代氏 参加者27人 第2回 7月15日(木)「絵本・物語の選書について」川崎玲子氏 参加者23人 第3回 9月17日(金)「ノンフィクションの選書について」木島悦子氏 「おはなし会の運営について」当館児童資料室職員 参加者25人 第4回「絵本の読み聞かせとおはなし会の運営」「レファレンスについて」当館児童資料室職員 「ブックスタートについて」出原道恵氏 参加者44人 平均29.8人/回
地域行政資料研修会	1回 参加予定数 40人	7月1日(木)開催。講演:「私と『船橋の地名』」(講師・滝口昭二氏)。演習「地域行政資料の探し方」資料紹介「ビギナーのための郷土資料入門」。参加者23人
レファレンス研修会(基礎研修)	3回 参加予定数 80人	5月26日(水)開催。講義「レファレンスサービス実践の基礎」「レファレンスインタビュー利用者への対応」・演習講義「クイックレファレンス演習・基本参考図書解題」。参加者32人。 6月10日(木)、11日(金)「インターネットを活用した調べ方」講師 当館司書 参加者40人
レファレンス研修会(インターネット情報検索研修)	1回 参加予定数 20人	10月21日(木)「インターネットによる情報検索事例の検討」 講師 青山学院大学教授 小田光宏氏
レファレンス研修会(レファレンスサービス専門研修)	1回 参加予定数 40人	2月開催予定
千葉県読書グループ研修会	第1回 参加予定数 100人 第2回 参加予定数 50人	6月3日(木)「島崎藤村 人と作品」 10月19日(火)「東金・銚子を訪ねて」 講師 島崎藤村学会理事 千葉 宣朗 氏
図書館音訳者養成講座	2回 参加予定数 45人	前掲 (P3)
障害者のための読書支援機器活用講座	3回 参加予定数 20人	前掲 (P3)
盲ろう者のための読書支援機器活用講座	1回 参加予定数 10人	前掲 (P3)
障害者サービス入門講座 国民読書年記念	1回 参加予定数 10人	前掲 (P3)

(2) 西部図書館

区 分	事業計画	実施状況
障害者サービス研修会	1回 参加予定数30人	6月16日(水) 「県立図書館の障害者「サービスの状況」報告者 当館職員「患者・家族・市民に対する図書館サービス」 講師 日本病院患者図書館協会会長 菊池佑氏 参加者22人
図書館ネットワーク研修会	1回 参加予定数30人	10月7日(木) 「デジタルネットワーク社会における図書館について」 講師 日本図書館協会理事・事務局次長 常世田良氏 「野田市立図書館サイトの運営事例」 発表者 野田市立図書館主任主事 川嶋斉氏 予定
資料補修研修会	1回 参加予定数30人	12月9日(木) 製本・資料補修に関する 講義及び実務 予定
図書館音訳者養成講座	6回 参加予定数55人	前掲 (P4)

(3) 東部図書館

区 分	事業計画	実施状況
図書館運営研修会	1回 参加予定数50人	6月25日(金)「図書館の危機管理～トラブルへの対応をとおして～」 講師 千葉県総合企画部参事 鎌水 三千男氏 参加者 41人
資料検索研修会	1回 参加予定数15人	7月23日(金)「知っていると便利な情報検索サイト」 講師 当館職員 参加者 8人
図書館音訳者養成講座	全5回 参加者予定数30人	前掲 (P4)

5 電算業務

インターネット系システム

区 分	事業計画	実施状況	進捗率
⑦ ホームページへのアクセス件数	目標 580,000件	292,617件	50.5%

平成22年度 千葉県立図書館サービス評価指標に関する経過報告

区分	サービス評価指標	計画策定時の達成目標	平成22年度達成目標	平成22年度目標 9月末現在進捗率	備考
1 所蔵資料の充実	① 資料購入冊数	概ね現状維持 平成22年度目標 20,000冊 (平成19年度実績 20,062冊)	18,600冊 93%	8,439冊 45.4%	平成21年度から3館の図書購入費が7%減額となったため、予算額に併せて目標値を下げています。
	② 寄贈資料受入冊数	3年間で1%増 平成22年度目標 8,300冊 (平成19年度実績 8,195冊)	8,300冊 100%	3,974冊 47.9%	
	③ 千葉県関係資料の受入冊数	3年間で6%増 平成22年度目標 3,200冊 (平成19年度実績 3,006冊)	3,200冊 100%	1,830冊 57.2%	
2 来館利用・情報アクセスの充実	④ 来館者数	3年間で1%増 平成22年度目標 508,000人 (平成19年度実績 503,078人)	508,000人 100%	293,562人 57.8%	
	⑤ 貸出冊数 (相互協力冊数を含む)		280,000冊 (平成20年度実績 272,211冊)	136,096冊 48.6%	「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」(千葉県教育振興計画)「読書県「ちば」を推進するの策定にともない、平成22年度指標として採用
	⑥ 来館者満足度	3年間で満足度70%以上(満足度6段階の上位2段階)を保ちながら、さらに向上するように努めます。 (19年度実績77%)	70%以上	—	
	⑦ ホームページへのアクセス件数	3年間で20%増 平成22年度目標 580,000件 (平成19年度実績 485,299件)	580,000件 100%	292,617件 50.5%	
3 レファレンスサービスの充実	⑧ レファレンス件数	概ね現状維持 平成22年度目標 32,000件 (平成19年度実績 32,634件)	32,000件 100%	18,542件 57.9%	
	⑨ 調査研究支援ツール作成件数	レファレンス事例集の充実を図るとともに、パスファインダーの作成に着手します。 a レファレンス事例データ提供:170件 b パスファインダーの作成・更新:30件 (平成19年度実績 a:3件)	a:190件 (111.8%) b:35件 (116.7%)	a:32件 b:9件	平成21年度に当初の目標値を達成したため、実績数をもとに平成22年度目標値を増加した。
	⑩ 外部データベース件数	平成22年度目標 17件 (平成19年度実績 15件)	18件 105.9%	17件 94.4%	平成21年度に当初の目標値を達成したため、実績数をもとに平成22年度目標値を増加した。
4 千葉県関係情報の充実	⑪ 千葉県関係情報の発信	質的充実を図ります。 [a 千葉県関係索引データ作成件数 b 千葉県関係のテーマ展示]	a:8,300件 b:4回	a:3,642件 b:2回	
	⑫ 資料の電子化	千葉県関係の貴重資料を中心に電子化を行い、利用促進を図ります。 (平成19年度実績 328タイトル)	400タイトル	780タイトル 195.0%	

区分	サービス評価指標	計画策定時の達成目標	平成22年度達成目標	平成22年度目標 9月末現在進捗率	備考
5・学 校庭の 教教充 育育実 支支援	⑬ 学校教育支援・ 家庭教育支援の 質的充実	学校図書館運営の充実や子どもの読 書活動の推進に向けた支援用マニユア ルの作成や連携の仕組みづくりに着手 します。	『子どもの心を育てる図 書館ガイドブック』の改 定版を作成するととも に、関係機関と連携し、 連携方策や協力体制のあ り方について検討を進め ます。	学校との連携についての プロジェクトチームを発 足し検討を進めている。	
6 児 童サ ービ ス	⑭ 児童書の貸出冊数 (相互協力冊数を含 む)		33,000冊 (平成20年度実績 31,769冊)	19,240冊	「千葉県子ども読書活動 推進計画(第二次)」の 策定にともない、平成2 2年度指標として採用
	⑮ 児童サービスの研修 内容の質的充実	児童サービス研修内容の質的充実を 検討し、段階的に充実します。	受講者アンケートで、理 解度・満足度ともに、8 5%以上を目指します。	受講者アンケートを実施 し、理解度、満足度共に 95%以上を達成した。	
7 障 害者 サー ビ	⑯ 録音図書貸出 タイトル数	3年間で 10%増 平成22年度目標8,000タイトル (平成19年度実績7,307タイトル)	8,000タイトル 100%	5,858タイトル 73.2%	
8 市 街 村 ト ウ ン の 充 実	⑰ 相互協力貸出冊数	3年間で8%増 平成22年度目標 90,000冊 (平成19年度実績 83,415冊)	90,000冊 100%	47,433冊 52.7%	
	⑱ 協力レファレンス 件数	概ね現状維持 平成22年度目標 2,800件 (平成19年度実績 2,793件)	1,400件 50.0%	673件 48.1%	図書館ホームページ等 の充実により各図書館が 独自で解決する件数増 え、相対的に協力レファ レンスが減少した。21年 度実績をもとに目標値を 設定した。
9 職 員 研 修 等 の 充 実	⑲ 体系的・実践的な 研修の実施	体系的・実践的な研修方法を検討し、 段階的に研修の充実を図ります。	体系的・実践的な研修方 法を検討し、段階的に研 修の充実を図ります。		
	⑳ 図書館ボランティア の育成	3年間で 20%増 平成22年度目標 320人 (平成19年度実績 267人)	320人 100%	335人 104.7%	



平成22年12月15日

県民の本棚 ～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～ 事業概要（経過報告）

1 事業名

県民の本棚 ～ みんなが選んだ「ちばの一冊」～

2 趣 旨

国では、本年を「国民読書年」とし、読書を推奨する取組を進めており、また、本県では、「読書県『ちば』」を推進することとしている。県立図書館では、これらの取組の一環として、読書を通して郷土を再発見していただけるよう、県民の皆様から「千葉県らしさ」が表れている図書を推薦していただき、この取組を通して、読書活動の一層の推進を図る。

3 募集期間

(1) 一般募集

平成22年7月6日（火）から平成22年9月7日（火）まで

(2) 学校関係者募集

平成22年7月6日（火）から平成22年9月30日（木）まで

（学校については、夏季休業と重複したため、8月24日付けで募集期間延長通知）

4 これまでの経過

(1) 報道関係

- ① 8月17日（火） 推薦図書募集についての第2回報道発表
- ② 8月18日（水） 「千葉日報」1面記事掲載
- ③ 10月 1日（金） 地域新聞「国民読書年」及び「県民の本棚」特集記事掲載
- ④ 10月26日（火） 推薦図書リストについての報道発表
- ⑤ 10月27日（水） 県立図書館ホームページに推薦図書リスト掲載
- ⑥ 11月22日（月） 教育広報「夢気球」に「千葉県子ども読書活動推進計画（第二次）」及び「県民の本棚」特集記事掲載

(2) 市町村立図書館等への対応

9月 7日（土） 学校関係募集延期文書発送

(3) 学校関係への対応

8月24日（火）～ 学校関係募集延期文書発送（全学校種 [私立含む]）

5 応募状況（確定数）

- (1) 中央図書館集計分 276冊
 - (2) 西部図書館集計分 328冊
 - (3) 東部図書館集計分 200冊
 - (4) 学校関係者集計分 586冊
- 合 計 **1,390冊**

6 今後の事業計画（予定）

- (1) 12月15日（水） 第2回図書館協議会（第1回選定委員会開催）
- (2) 3月中旬 第3回図書館協議会（第2回選定委員会開催）→選定図書決定
- (3) 23年度 選定図書の県立3館巡回展示

「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』」選定委員会設置規程（案）

（目的）

第1条 本県の読書活動の更なる推進を目指し、県民から推薦された「千葉県らしさ」が表れている図書の中から、選定方法及び選定方針等の策定を行い、「千葉県らしさ」が顕著な図書を選定するため、「県民の本棚～みんなが選んだ『ちばの一冊』」選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置する。

（委員）

第2条 選定委員会は、委員13名以内で組織する。

- 2 委員は、千葉県図書館協議会委員及び千葉県立中央図書館長、西部図書館長、東部図書館長とする。
- 3 委員の任期は、平成22年度末までとする。

（運営）

第3条 選定委員会の委員長は、千葉県図書館協議会議長とし、副委員長は、千葉県立中央図書館長とする。

- 2 委員長は、選定委員会を統括し、副委員長は、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代行する。

（事務局）

第4条 選定委員会の事務局は、千葉県立西部図書館において処理する。

（その他）

第5条 この規程に定めるもののほか、選定委員会運営に関し必要な事項は別にこれを定める。

附則

この規程は、平成22年12月15日から施行する。

「(仮称)千葉県立図書館の今後の在り方」素案

第1章 千葉県立図書館基本構想の見直し

第1節 基本構想見直しの経緯

第2節 地域分担から全体の機能強化へ

第2章 千葉県の図書館をめぐる状況

第1節 図書館をとりまく社会状況の変化

第2節 現状と課題

1 県内図書館

- (1) 県民の読書環境に関する自治体格差
- (2) 書庫狭隘化による膨大な資料廃棄
- (3) 散逸する千葉県関係資料・情報の整備とネットワーク化
- (4) 専門職員の研修と育成

2 県立図書館

- (1) 資料収集分担の明確化
- (2) 市町村立図書館、学校図書館への支援強化
- (3) インターネット活用による非来館型サービスの充実
- (4) 図書館利用に障害のある県民に対する支援
- (5) 県内大学図書館、博物館等他機関との連携強化
- (6) 県立図書館司書の確保と育成
- (7) 利用促進のための広報活動の充実
- (8) 中央図書館の耐震化・老朽化、書庫狭隘化

第3章 これからの千葉県立図書館

第1節 基本理念

第2節 県立図書館の役割と具体的施策

第3節 今後の施設整備の方向性

第1章 千葉県立図書館基本構想の見直し

第1節 基本構想見直しの経緯

「いつでも、どこでも、だれでも」利用できるという公立図書館の基本理念を実現するために、県立図書館は、県民に身近な市町村立図書館が行うサービスを様々な形で支援し、県内全体の図書館サービスの向上を図っています。

現在の県立図書館の在り方を示した基本構想は平成6年に策定されており、この間、県立図書館の果すべき役割は、市町村立図書館の整備状況や社会の変化に対応して変わってきました。

基本構想見直しまでの経緯は次のとおりです。

1 4館構想の始まり

昭和52年、県立中央図書館協議会から、県全域に図書館サービスの浸透を図るため、県内を4地域に分け、各地域に県立図書館を設置するとともに、相互協力（資料の図書館間貸出）に不可欠な図書館協力車の巡回を開始することが答申^{*1}として出されました。当時、本県では、市町村立図書館の整備が進んでおらず、県立図書館を各地域に設置することにより、交通機関を利用して約1時間程度で県立図書館が利用できるようになるとの提言でした。

2館目の県立図書館である西部図書館は、昭和62年松戸市に設置されました。

*1『県立中央図書館運営の基本方針について 答申』（千葉県立中央図書館協議会 昭和52年6月24日）

2 基本構想の策定

平成2年、県社会教育委員会議の答申^{*2}で新県立中央図書館（仮称）と県立地域図書館の整備等が提言されました。平成6年、この答申を受けて、基本構想^{*3}が策定され、図書館ネットワークを推進し、地域の実情に応じた市町村立図書館等への支援やサービスを行うため、新中央図書館の整備計画や東部地域への県立図書館の設置が構想されました。

また、県立図書館が地域図書館ネットワークを整備し、市町村立図書館等の支援を図るとともに、資料・情報センターをはじめとする県立図書館の様々な機能の充実、電算システムの構築といった高度情報化社会への対応が課題とされました。

この基本構想に基づき、平成10年旭市に東部図書館が開館しました。

*2『生涯学習社会における県立図書館の整備について 答申』（千葉県社会教育委員会議 平成2年9月19日）

*3『千葉県立図書館基本構想』（千葉県教育委員会 平成6年3月）

3 基本構想の見直し

市町村立図書館の整備が進むとともに、図書館数、蔵書数等が大幅に増加し

ました。一方、県立図書館では、平成13年4月から、図書館協力車の巡回頻度を全市町村週1回とし、県民は県立図書館に直接来館しなくても、身近な市町村立図書館等を通じて必要な資料を取り寄せて利用できるようになり、図書館ネットワークは確立しました。電算システムについては、同年、ホームページを公開し、自宅や勤務先からインターネットを通じての蔵書検索が可能になり、平成19年2月からは、調査相談の質問が電子メールでもできるようになりました。

また、平成19年の県図書館協議会の答申^{*4}では、非来館型サービスの充実や市町村立図書館への援助強化、運営体制の見直しが提言されました。平成21年には、県生涯学習審議会から「今後の千葉県における図書館の方向性について(意見)」として、県立図書館の役割や機能の強化・分担等の意見をいただきました^{*5}。

県では、これらの答申や意見を踏まえ、県立図書館が果たすべき役割や機能を明確にし、これからの時代にふさわしい県立図書館の在り方を再構築するため、基本構想を見直すことにしました。

*4『これからの時代に求められる千葉県立図書館運営の在り方について』(平成19年1月)

*5『今後の千葉県における図書館の方向性について(意見)』(平成21年6月)

第2節 地域分担から全体の機能強化へ

市町村立図書館の整備、蔵書の充実と、県立図書館のサービス、蔵書の充実とが車の両輪となり、県立図書館が市町村立図書館支援に重点を置くことにより、県民がどこに住んでいても必要な資料が提供されるようになりました。相互協力冊数は全国でも高いレベルとなっています。しかし、県内の市町村立図書館の状況を見ると、蔵書数、サービス水準も高く、全国的に見ても先進的な図書館サービスを行う図書館がある一方、県内市町村の3割にあたる自治体には図書館が設置されておらず、それぞれの求めに応じた適切な支援が必要です。

また、県内の道路網や交通機関の整備が進み、インターネットをはじめとする情報コミュニケーション技術が飛躍的に進展した現在では、県立図書館が資料提供のための資料集積基地を持ち、県民が必要とする資料を迅速に提供できれば、県民は県立図書館がどこにあるのかを意識しなくても県立図書館サービスを利用することができます。

このため、昭和52年当時のように県内を4地域に分け、各地域に県立図書館を設置するという地域分担の考え方よりも、これからの社会や時代の状況に対応した県立図書館全体としての機能を一層強化することが重要な課題となっています。

第2章 千葉県の図書館をめぐる状況

第1節 図書館をとりまく社会状況の変化

近年、図書館をとりまく状況は、大きく変化しています。地方分権の推進に伴い、県と市町村との役割分担を明確にすることが求められており、資料の貸出など住民への直接的なサービスは、住民の身近にある基礎的自治体である市町村が担い、広域的自治体である県は広域的なサービス、市町村職員対象の研修事業や連絡調整事務、市町村で行うことが困難又は不適当なもの等を担うべきと考えられます。

また、インターネット等情報通信技術の急速な普及・進展は、地域間の情報格差を少なくし、図書館利用者の利便性を向上させました。今後は、図書館に来館しなくても様々な情報を有効に活用できるようにするとともに、資料のデジタル化や電子書籍など、図書館界や出版界における新たな状況にどう対応していくかが課題となっています。

複雑で変化の激しい現代社会の中で、私たちは様々な課題に直面しています。その中でよりよく生きていくためには、豊富な資料や情報を入手して自らの判断に資することが重要です。そのために、図書館には、迅速、的確な資料・情報の提供、調査相談が求められています。

高齢社会は、人々の生涯学習や余暇を支える重要な社会教育施設としての図書館の存在意義を大きくしているとともに、未来を担う子どもたちに対しては、読書が人間形成に重要な役割を果たしていることを踏まえて、読書環境の整備と読書活動の推進に努めていく必要があります。

第2節 現状と課題

1 県内図書館

(1) 県民の読書環境に関する自治体格差

都市部を中心に、新たな地域図書館が設置されるなど、県民の読書環境が向上する一方で、県の東部地域や南部地域における市町村立図書館の設置率は全国的に見ても低く、県内市町村の3割は、図書館が未設置*¹であり、県民の読書環境は地域による格差がまだまだ大きい状況です。

*1「日本の図書館2009」（日本図書館協会刊行）の調査では、町村の図書館設置率は千葉県が全国最下位（平均53.1%）でした。

また、図書館設置自治体での1人当たりの個人貸出冊数は最大23冊、最小1冊未満という結果でした。（「千葉県の図書館2010」千葉県公共図書館協会刊行）

(2) 書庫狭隘化による膨大な資料廃棄

市町村立図書館では、限られた収蔵スペースで新鮮な蔵書を維持するため、所蔵する資料を適宜除籍しています。千葉県公共図書館協会の調査に

よると除籍されている図書は年間約45万冊*²になります。必要な図書が県内の図書館に無い場合は、国立国会図書館や他都道府県の図書館から取り寄せることとなりますが、経費も時間もかかります。県民がいつでも必要な資料を簡単に利用できるように、県立図書館で所蔵していない資料は、県内で最低1冊は保存する体制づくりが必要です。

*2「千葉県の図書館 2010」（千葉県公共図書館協会調べ）

(3) 散逸する千葉県関係資料・情報の整備とネットワーク化

千葉県に関する様々な資料は、千葉県の文化的財産です。しかし、官公庁刊行物や自費出版物など出版情報の得難い資料も多く、散逸することが懸念されます。

市町村立図書館では自治体内の資料を収集し、文書館や博物館等も資料を所蔵していますが、これらの所蔵情報を一括で検索できる手段がありません。

将来にわたり、千葉県に関する資料を伝えていくためには、国内外すべての千葉県に関する資料や情報を収集、整備し、情報提供する調整役が必要です。県民がいつでも千葉県資料の画像データを検索・閲覧できるよう、デジタル化やインターネットでの公開を推進する情報整備の拠点として、県立図書館は最適です。

(4) 専門職員の研修と育成

県民が、県内のどこに住んでいても最適な図書館サービスが受けられるためには、身近な市町村立図書館が充実していることが重要です。そのため、県立図書館では、県内市町村立図書館等職員の資質向上を図るための研修を実施していますが、多様化する社会の中で、利用者のニーズに的確に対応するためには、更に充実した研修を体系的に実施することが不可欠です。

2 県立図書館

このような県内図書館の状況を踏まえると、これからの県立図書館には次のような課題があります。

(1) 資料収集分担の明確化

現在、県立図書館では、県民の多様な資料要求にこたえられるよう、市町村立図書館や類縁機関等との収集分担に努めています。また、県立図書館3館の中でも「ゆるやかな収集分担」を行い、西部図書館では自然科学・医学・工学系を、東部図書館では歴史や文学系を、中央図書館では社会科学系等他の2館で収集していない分野の専門書を主として収集しています。また、中

中央図書館が子ども読書活動支援の中核的な拠点であることから、児童資料を中央図書館で集中的に収集したり、千葉県関係資料の全県的で網羅的な収集は中央図書館が担うなど、特色のある蔵書構築を行っています。

今後、県立図書館の専門的な調査相談機能を向上させるためには、これらの資料収集分担を明確化することが必要です。

(2)市町村立図書館、学校図書館への支援強化

電算システムやインターネットの発展による情報ネットワークの整備と全市町村への図書館協力車の毎週巡回により、図書館のネットワーク化が進み、一部の県立高校にも図書館協力車が巡回するようになりました。今後とも、図書館ネットワークを維持し、さらに充実していく必要があります。

また、子どもの読書活動を推進するためには、県立学校への調査相談、情報提供、物流支援、人材支援（ボランティア支援を含む）を進めるとともに、市町村立図書館と学校図書館との連携協力を基本とし、必要に応じて、市町村立図書館等を介した間接的な小・中学校等への支援を行うことが課題です。

(3)インターネット活用による非来館型サービスの充実

インターネットを積極的に活用することにより、図書館に直接来館できない人々へのサービスの充実を図る必要があります。現在も、県立図書館のホームページでは、24時間調査相談のメール受付や貴重な千葉県資料の画像データの公開、千葉県関係の雑誌や新聞の記事索引、テーマ別文献案内などの掲載を行っていますが、これらのサービスの利用を拡大し、更に充実していくことが課題となっています。

(4)図書館利用に障害のある県民に対する支援

高齢者、図書館の資料や施設の利用に障害のある方、日本語を母語としない外国人居住者等に配慮し、個々の状況に応じたサービスの提供を進めていく必要があります。また、障害のある方等が身近な市町村立図書館を利用しやすくなるように市町村立図書館職員等を対象とした講座や研修などの事業を企画・実施できる体制づくりも必要です。

(5)県内大学図書館、博物館等他機関との連携強化

県民の資料や情報に対する要求は、ますます多様化・高度化してきています。これらに応えるために、学術的な専門資料・研究情報を有する県内

大学図書館や専門図書館、県立博物館や文書館等類縁機関とのネットワーク化や積極的な情報交換ができる環境整備が必要です。

(6) 県立図書館司書の確保と育成

以上の課題を解決するためには、専門的な知識と経験を持つ司書が不可欠です。特に県立図書館の司書は、市町村立図書館では解決できない調査相談、市町村立図書館からの運営相談などに対応するとともに、広域的な観点からの図書館活動を、県行政機関や市町村立図書館等とともに連携しながら、企画・推進していきます。

今後、県内の図書館活動を充実していくためには、県内市町村立図書館、学校図書館、大学、博物館等類縁機関、県関係機関と連携・協力を図りながら、県民の調査相談、生涯学習支援を推進していくための企画と事業実施、市町村立図書館職員等の研修ができる県立図書館司書の確保と育成、資質向上が喫緊の課題です。

(7) 利用促進のための広報活動の充実

県民の生涯学習を支援していくためには、市町村立図書館の特色や事業を紹介するなど、県全体の図書館のイメージアップや利用の促進を図ることが大切です。また、県立図書館は県民にとって必ずしも身近な図書館ではないため、県立図書館の役割や機能を知らせる広報、啓発事業を企画・立案し、実施する必要があります。

(8) 中央図書館の耐震化・老朽化、書庫狭隘化、カウンターの分散

中央図書館は、県の中心地にあり、県庁に近いことなどから、市町村支援をはじめとした県立図書館機能を果たす上で中核となる施設です。耐震診断結果や施設の老朽化による利用者の安全確保が急務であるとともに、現施設の有効利用、県立図書館の機能強化の観点からも、施設のリニューアルが必要です。特に、書庫狭隘化対策、来館者への迅速な対応のためのワンストップサービス*³、高齢者等の利用に配慮したバリアフリー化への対応策が必要となります。

*³ 一度の手続で、必要なことすべてを完了できるように設計されたサービスのこと。